

交通の利便性や商業施設の整備が評価され、民間企業が行った「住んでみたい街(駅)ランキング2010」で、県内1位になった川越。川や緑など豊かな自然を持つまちでもあります。普段見慣れている自分たちの周りにも、環境について考える材料がたくさんあります。まずは身近なところから目を向けてみませんか。

「かわごえ環境ネット」は、市と協働して環境保全活動を行い、川越の環境の環(わ)を太く大きくつなぐことを目指している組織。市内の環境を守っていくため、さまざまな活動を行っています。



「まち美化活動」では、川越まつりの会場で、4、5人のグループに分かれ

ゴミ拾いをしました。またゴミ拾いの難しい混雑した場所では、「動くゴミ箱」として大きなゴミ袋を持ち、歩いている人にゴミを入れてもらいました。

夏に開催した「虫の観察会」は、2歳から69歳までの幅広い年齢の皆さんが参加。セミは鳴き声や抜け殻で種類が分かることや、虫を探すポイントなどを解説。生物の生態系を知り、環境について考えるきっかけ作りをしています。



これらの活動は、会報誌「月刊かわごえ環境ネット」で紹介しています。会報誌は環境政策課(本庁舎5階)にあります。また、同ネットのホームページで見ることができます。

今回出かけたのは

### 「霞ヶ関駅」

大正5年の駅開設当初、駅名が「的場」だったことを知っていますか？

「霞ヶ関カンツリー倶楽部」ができたことにちなみ、昭和5年に「霞ヶ関」に改名。現在のJ.R的場駅は、その十年後にできました。

的場駅だった当時、砂利を運ぶトラックが走っていたと聞き、調べてみました。

## 川越再発見

した。当時を知る人の話では、霞ヶ関駅南口、現在の自動車教習所の場所に砂利集積所があり、そこから入間川へトロッコが走っていたとのこと。

J.R川越線の線路の下に、その跡が残っています(下写真)。

昔はこの辺りから東武東上線が見えたそうです。入間川で取った砂利は、東京のビル建設などに使われたとか。40年近く行われた砂利採取は、川の水位が低下し周辺田畑に影響が出たため、昭和33年に終了しました。



許可を得て撮影しています

## 消費生活の豆知識

### その10 換金性の乏しい外貨通貨に注意!

生活情報センター ☎226-7066 (相談専用 ☎226-7476)

#### 事例

A社から、スーダンポンド購入のダイレクトメールが届いた。数日後、B社から、スーダンポンドを持っていたら高値で買取るという電話がかかってきた。またすぐにA社から、「ダイレクトメールは届いたか」と電話が来て、熱心に勧められ、購入してしまつた。

これは、「必ずもうかる」「高値で買い取る」とおあって、だまそうとする手口です。

平成22年3月以降、イラク通貨(イラクディナール)の購入を消費者に持ちかけるトラブルが多発しています。最近では、スーダン通貨(スーダンポンド)取り引きのト

ラブルが発生しています。

#### 消費者へのアドバイス

① 換金性の乏しいイラクやスーダン通貨などの購入は、慎重に対応しましょう。このような事例で買い取りが実行されることは、まずありません。

② 「国民生活センターと協力している」などと、かたる事例もあります。行政機関が特定の業者にお墨付きを与えることは絶対にありません。

③ 高齢者や、過去に投資トラブルにあった人は特に注意しましょう。

④ 不審に感じたら、生活情報センターに相談してください。

このシリーズでは、平成21年度川越市人権教育実践報告会で発表した小中学生の人権作文を紹介いたします。

偉大なる背番号42①

川越第一中学校 二年

「あれ、イチローって51番じゃなかったっけ?」。日米通算安打が張本選手の持つ三〇八五本の記録に並んだシーンを見たとき、イチロー選手が背番号42番をつけているのに気づいた。

後で新聞の記事を読むと、黒人初

の大リーガーである、ジャッキー・ロビンソン選手のこと紹介されて

いた。かつて、黒人選手たちは、大リーガーから完全に締め出されていた。人種差別と闘いながらも、新人王・盗塁王・首位打者を獲得した偉大なロビンソン選手の功績をたたえ、彼がデビューした日を記念して、大リーグの全選手やコーチ、審判員

までもが背番号42をつけるという内容だった。

WBCやメジャーリーグ、また、日本のプロ野球の試合でも、多くの黒人選手がすばらしい活躍を見せている。僕は、その選手たちを、人種が違うからとか、国籍が違うからとか、肌の色が違うからという目で見ているだろうかと自分に問いかけて

みた。いやそれよりも選手たちの活躍を目の当たりにして、「かつこいいなあ」と思ったり、「がんばれ」と応援したりしている。国籍や人種、肌の色などを意識して見たことは一度もなかった。それどころか、彼らは僕にとってはあこがれの存在なのだ。それだけに、新聞記事はともシヨックであり、納得できないものだけが残った。

(つづく)

品格あるまちを目指して

# 市長からの手紙



## 変えます。ここを! ⑨「市長室のバリアフリー」

昨年11月、市長室の床を板張りにしました。私が就任した平成21年2月当時、市長室、秘書室、両室をつなぐ廊下には、えんじ色のじゅうたんが敷いてありました。それは、だいぶ古く、何箇所か穴が開いていたり、波をうっていたり、はがれていたりするなど、改修が必要な時期を迎えているものでした。

市長室には多くの方が訪れます。じゅうたんにつまずいて危険ではないかと、心配に思うことがあり、また、穴の開いたじゅうたんでは、失礼ではないかと感じたこともあります。そこで、市の財政状況を考慮し、経費の節約を念頭にして使えるものは有効活用しつつ、最小限の改修を実施しました。

昨年3月、秘書室と廊下をタイルカーペットにし、同時に秘書室の入口部分の間仕切りを取り払ってカウンターを設置しました。これによって「開かれた秘書室」の印象になり、ずいぶん雰囲気が変わりました。次いで、市長室の改修に取りかかり、床を県産木材である「西川材」により板張りにしました。

これは、飯能市長やときがわ町長の薦めによるものです。両氏の執務室は、地元の材木を活用するデモンストレーションを兼ね、床や壁が板張りになっています。昨秋、ときがわ町長の招きで町立の中学校、保育園などを見学しました。町長の話により「板張りの施設は、見た目がソフトなことに加え、児童・生徒をはじめ建物を使用する人の情操面でも大変良い効果が出る」とのことでした。

県産の木材を公共施設に使用する場合、県から一定の補助金が出ることになっています。この制度を活用することにより、県産品の奨励に加え、市の経費削減ができるというわけです。板張りは、じゅうたんのような豪華さはありませんが、明るく実務的で、木のさわやかな香りがします。

足音は少々響くものの、歩きやすく、車いすを利用する方にとっても動きやすくなり、バリアフリーが実現できたと考えています。

川越市長 川合善明